

中学校区における子ども像
「確かな学び」 「豊かな心」 「健やかな体」 を育みながら自他ともに尊重し、自ら考え、行動できる子ども

令和7年度 重点目標
1.思考力・判断力・表現力を育む授業づくり 2.自分も他者も大切にする心の教育 3.心身ともに健康な子どもの育成

<p>「確かな学び」の現状 ・漢字の復習学習や計算力向上のために100マス計算に全学年で取り組んでいる。継続して取り組んできている成果もあり、多くの学年で目標を達成できている。より多くの児童に力がつくように継続して取り組んでいく必要がある。 ・対話をテーマに学校全体で研修に取り組んできた。学校教育アンケートや本校独自の対話に対するアンケート結果から対話についての意識の向上が見られた。本年度も対話をテーマとし、全校をあげて研修に取り組んでいきたい。</p>	<p>「豊かな心」の現状 ・自分を肯定的に捉えている児童の割合が80%を超えている。さらに、多くの児童が自尊感情・自己肯定感を高められるように取り組んでいきたい。 ・協調するという面では、互いに思いを譲り合ったり、相手の考えを受け入れたりすることに課題が見られる。友だちの良さにも目を向け、相手の気持ちを考えて行動する心も育てていきたい。 ・全体としては、落ち着いて過ごせている。(校内でのトラブルは減っている。授業態度もよくなっている) ・そうじは、がんばれている児童が多い。 ・自分からあいさつをする、ろうか歩行、トイレのスリッパをそろえることに、課題あり。 ・きまりを守るは、一部の児童に課題あり。</p>	<p>「健やかな体」の現状 昨年度実施のアンケートでは、8割以上の児童が、「外で遊ぶこと」「運動することが好き」「体育の授業が好き」といった項目のアンケートで肯定的な回答を得た。スポーツテストの結果に関しては、「反復横跳び」「立ち幅跳び」といった、瞬発系の種目で、堺市平均を上回っている。一方、「シャトルラン」(持久力)では、ほぼすべての学年で、堺市平均を下回り、学校としての課題となっている。 R4年度より、けんかつ(健康生活)アンケートを実施し、「姿勢に気をつけて生活していますか」の肯定的評価が低いと、啓発指導を実施したが、すぐには成果が出なかった(R4年度 58.2%→R5年度 58.5%)。本校の課題である睡眠は、継続的に指導を続けているが、習い事や家庭の都合などで成果が見られない。</p>
--	---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～7月)	達成状況 (年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	学力向上	・授業で困らない計算力や漢字の書き取り力を身に着ける。(基礎学力の定着と向上) ・自分の思いや考えを表現できる。他者の思いや考えを聴くことができ、そこから自分の考えを深めることができる。(思考・判断・表現) ・GIGA スクール構想に基づき、ICT を効果的に活用できる。	・朝学を活用して、計算力・漢字力の向上をめざす。(本校独自の漢字・計算チャレンジに取り組む。) ・月に2回程度の作文指導を実施する。 ・年間を通じて「思考力・判断力・表現力の育成」をテーマに教職員で研究する。 ・子どもが自ら学びを進める授業の考え方(学びのコンパス)を各教科で実施する。 ・高学年:調べ学習やプレゼンソフトを活用して自分の考えを表現する。 ・低学年:児童用PCを活用し、学習のふりかえりに取り組む。	・100マス計算1～2年(2学期末集計)…5分以内70%以上 ・本校の計算テスト3～6年生(2学期末集計)…正答率80%以上 ・2学期漢字まとめテスト1～2年(2学期末集計)……正答率70%以上 ・漢字チャレンジ3～6年生(2学期末集計)……正答率80%以上 ・研修部会からの研究テーマに関する児童アンケート結果の向上。 ・児童用学校教育アンケート「思ったことや考えたことを文章にできる」「予想や考え方などをノートに書くことができる」…肯定的回答85%以上 ・高「児童用PCを使用して自分が調べたい情報を調べられますか?」低「ドリルパークに取り組んで習ったことの復習ができていますか?」…肯定的回答85%以上	本校独自のチャレンジテスト 学校教育アンケート 研修部会からのアンケート	3学期	○	・100マス計算や計算チャレンジ、漢字チャレンジは2学期末集計。1学期は1年生以外の学年で実施した。(前学年の復習をしているため) ・PDCAサイクルシートを活用した各学年の研修への取り組みについてふりかえりを夏期研修時に実施。 ・全校をあげて、作文指導の充実に取り組んだ。 ・1、5年生で研究授業および、事前事後討議会を実施。 ・児童アンケート、学校教育アンケートは2学期実施予定。	△ ・100マス計算 達成【3年生→たし算・わり算 4・5・6年生→たし算・ひき算・かけ算・わり算】 未達成【2年生→たし算・ひき算 3年生→ひき算 かけ算】 ・計算テスト 達成【3年 6年】 未達成【4年 -14.2% 5年 -10.5%】 ・漢字 達成【1年 3年】 達成【2年 -2.2% 4年 -7.2% 5年 -5.1% 6年 -9.7%】 ・研修部会からの研究テーマに関する児童アンケート結果の向上 達成【質問項目の過半数以上でアンケート結果が向上した。】 ・児童用学校教育アンケート「思ったことや考えたことを文章にできる」「予想や考え方などをノートに書くことができる」…肯定的回答85%以上 → 達成【93%】 高「児童用PCを使用して自分が調べたい情報を調べられますか?」低「ドリルパークに取り組んで習ったことの復習ができていますか?」…肯定的回答85%以上 → 達成【89%】	○ ・iPad等ICT機器の効果的な活用も大切である一方、紙や鉛筆での基礎基本の定着も重要であることは今後も変わらないので、引き続き取り組みを進めていただきたい。 ・数値だけに左右されず、継続して基礎学力の向上に取り組んでいただきたい。 ・目標を下回っている項目に関しては、引き続き向上に向けた取り組みを続けていただきたい。 ・中学校群の取り組みを中心に中学校との連携を密にことり、9年間の学びを充実させるような丁寧な連携をしていただきたい。 ・情報があふれている中で、出てきた情報が正しいのか判断し見極める力を養っていただきたい。
		・「自分のよさ」「自分らしさ」を見つけ、自己肯定感を高める。 ・自分から他者に関わり、自他ともに良さを認め合い、集団としてなかよく活動できる。	・自分のことを知る取り組み(1学期) ・ありのままの自分を認め、受け入れる。(心の成長アンケートを取り、学年初め・中間・学年末と変容を見る) ・なかまとつながる取り組み ・学校全体で「なかまとつながる取り組み」をする。 ・なかまづくりの研修を行い、「目指す子ども像」を明確にして教職員の集団づくりへの意識を高め、実践を交流する。 ・学年・学級で行ったなかまづくりの取り組みから、児童が自分を意識して行動したかを実感するため、学期末ごとに心の成長アンケートを行って自分を振り返る。	・学校教育アンケート 「自分には、よいところがあると思いますか」:肯定的回答80%以上 「友だちの気持ちを考えて、行動している」:肯定的回答80%以上	学校教育アンケート	3学期	○	・なかまづくり研修(夏季研修)を実施:教職員の集団づくりの意識を高め、学年・学級活動での実践事例と、その成果や課題について共有を行った。 ・心の成長アンケートを実施:①自分の良いところを知っている ②友だちの気持ちを考えて行動しているどちらも80%以上	○ 学校教育アンケート結果(肯定的回答) 「自分には良いところがあると思いますか」:87.5%(低90% 高85%) 「友だちの気持ちを考えて行動している」:94.5%(低96% 高93%) 心の成長アンケート結果(肯定的回答) 同項目いずれも80%以上 学校行事や縦割り活動、日々の学習・学校生活の中で役割を持ちやり遂げた達成感や友だちに助けられたこと、「ありがとう」と感謝されたことなどの経験が自己肯定感や自己有用感の高まり、思いやる心を豊かにしていると考えられる。	○ ・子どもたちには、学校の道徳の学習を軸に、言葉や伝えることの大切さや難しさを感じさせてあげてほしい。 ・人権教育を中心に、子どもたちのより良い関係づくりを行い、アンケートでも肯定的回答が多かったことは評価できるが、友だちと同様、自分を大切にできる教育を進めていただきたい。 ・生活アンケートの結果をもとに面談を行うことで、今後とも「いじめ」の芽をつんでいってほしい。

	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に入るとき、校舎に入るとき、教室に入るときに、自分からあいさつができる ・みんなのためにろうか歩行を意識して過ごせる ・みんなのために自分の履物をそろえたり、そろっていないスリッパを揃えることができる ・学校のきまりを守り、守ることに価値を見出せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハテナボーイを朝の会で毎日チェック ・学校外での遊び方の指導を下校時間が早い日に全クラスで行う ・行事ごとや、要所でアクティブに学年集会を行い、全員で指導する ・朝礼で各委員会からよびかける ・朝礼で生徒指導担当から月別目標の講話をして、クラスで取り組む ・週1回の月目標のチェックと月1回の振り返りをクラスで丁寧に行う ・委員会活動と連携した取り組み（特に、あいさつ、廊下歩行、スリッパ） ・職員への啓発と職員が見本となる姿を見せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「学校のきまりを守っている」の項目で肯定的評価80%以上 ・学校教育アンケートの「あいさつをよくしている」の項目で肯定的評価80%以上 ・学校教育アンケートの「掃除を一生懸命している」の項目で肯定的評価80%以上 	学校教育アンケート	3学期	△	<ul style="list-style-type: none"> ・はてなボーイのうち、ぼうしをかぶらない児童はまだいるが、減っている。 ・あいさつ 低学年はおおむねできている。自分からはどの学年もまだあまりできていない。 ・不要な持ち物を持ってくる児童がまだいるが、話をすれば改善している。 ・そうじはどの学年・クラスも頑張っている。 ・スリッパがそろっていないことが多い。声はかけ続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育アンケートの結果(肯定的回答の%) ・学校のきまりを守っている【児童】(89.5%) 【教職員用】(95%) ・あいさつをよくしている【児童】(89%) 【教職員用】(82%) ・掃除を一生懸命している【児童】(97.5%) 【教職員用】(95%) ○ 学校は子どもの間違っただけ行動を指導してくれる【保護者】(94%) ○ 昨年度の課題の一つであった、子どもの自己評価と教職員アンケートの乖離は改善されてきている。 ○ 次年度への課題 ・ろうか歩行、スリッパ ・児童主体のあいさつへの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「職員が見本となる姿を見せる」はその通りである。児童のアンケートの項目にある「きまりを守る」「あいさつをする」「掃除を一生懸命にする」など、先生がその姿を見せることが、子どもたちの規範意識を高める一番の取り組みである。
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育の授業が好き」「運動することは好き」という児童が学校の90%に増加。 ・スポーツテストにおいて平均記録を上げる。(特に昨年度堺市平均を下回った種目) ・体力向上への取り組みに積極的に参加する児童の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心とした体力向上への取り組み(八田荘チャレンジ)を行う。昨年度リズム縄跳び、ハの字跳びだったが、今年度はスポーツテストの結果をもとに種目を検討する。 ・体育授業においては、授業改善をはじめとし、年間指導計画を見直す。 ・スポーツテストにおいては、体育委員会が事前に種目体験会を企画し、体の動かし方のイメージを持たせる。 ・スポーツテストの結果は全児童に返却することで、自分の体力の現状を振り返る機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「外で元気に遊んだり、体育の授業で体を動かしたりすることが好きだ」の項目で肯定的評価が90%以上。 ・けんかつアンケートの「体育の授業が好きですか」「運動することは好きですか」の項目で肯定的評価がそれぞれ90%以上。 ・スポーツテストの結果(堺市平均、前年度の結果との比較) 	学校教育アンケート 研修部会からのアンケート スポーツテスト	3学期	△	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に行ったけんかつアンケートでは、「体育の授業が好きですか」「運動することは好きですか」という質問に対して、共に85%以上の肯定的回答が得られてはいるが、目標の90%以上には到達していなかった。授業改善として、2学期に2年生において体育科の校内研究授業を行い、職員全体で体育授業について研修を行う。 ・5月に行ったけんかつアンケートの「雨が降っていない日、学校の休み時間は、外で遊びますか」という質問では、昨年度11月に行った同じアンケートよりも肯定的回答が増加している。体育委員を中心に、引き続き体力向上への取り組みを続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 【12月のけんかつアンケート結果】 ・5月に行ったけんかつアンケートと比較すると「体育の授業が好きですか」「運動することは好きですか」の項目においても肯定的評価が2パーセント以上増加した。(両項目とも87.8%)また、昨年度と比較しても肯定的回答が増加している。 ・「雨が降っていない日、学校の休み時間は、外で遊びますか」という項目においても昨年度と比較して肯定的回答が増えた。 △ 体育委員会を中心に体育館や運動場で体力向上の取り組みを行った。また、校内研究授業で2年生において体育の授業を行い職員全体で体育の授業づくりについて研修した。その結果全体的に「体育」「運動」への関心が上がっている。しかし、目標とする数値には届かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ・体育の授業だけでなく、休み時間を使った様々な取り組みから、けんかつアンケートの結果で肯定的評価が増加していることは、評価できることである。 ○ ・寒い冬の休み時間も多くの児童が運動場に出ており、外遊びをしていることから、運動を好んでいることがうかがえる。一方で、教室に残っている児童や運動がにがてな子に対しても継続して支援をしていただきたい。 ・学力同様、目標設定や課題のある点には真摯に向き合い、改善・解決に向けて尽力してほしい。
健やかな体	健康の維持・増進	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の姿勢に意識を向けて生活のできる児童 ・早寝を意識することのできる児童 ・1日3度の栄養バランスのとれた食事が大切だと思う児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康生活目標の周知(姿勢については毎回触れる)朝礼で保体給からの講話後、担任からの講話 ・けんかつ(健康生活)アンケートを年1回(11月)実施して、実態を把握する ・発達段階に応じた目標睡眠時間の周知・指導を継続的に実施する ・朝ごはんの3つのスイッチに関して、朝礼等で学期に1回指導する。 ・ホワイトボードを活用して、給食の食材や栄養バランスについて指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「早寝早起き朝ごはん…」の項目で肯定的評価 児童用80%保護者用90%以上 ・けんかつアンケートで肯定的評価 睡眠(学校があった日…寝…)70%以上 姿勢60%以上 朝ごはんの3つのスイッチ…90%以上 苦手なものが…90%以上 	学校教育アンケート けんかつアンケート	3学期	△	<ul style="list-style-type: none"> △ ・周知、指導を継続中(朝礼で健康生活目標、給食時間の放送で発達段階に応じた目標睡眠時間、ホワイトボード) ・けんかつアンケートの結果より、低学年で一口チャレンジをする児童の割合が少ない、 ・残食の多い野菜に焦点を当てて、7月に給食推し活週間を実施 ・けんかつアンケートの結果より、睡眠時間の定着が浅い→10月の保健指導に睡眠の項目を追加する予定です。 ・姿勢を意識する活動(せすじいビンゴ)の取り組みをします。 △ 【5月けんかつアンケートの結果】 ・学校があった日は何時までに寝ますか:69.8% 姿勢に気を付けて生活していますか:60.7% ・朝ごはんの3つのスイッチがわかりますか:80.9% 苦手なものが給食にでたときどうしていますか:88.3% 	<ul style="list-style-type: none"> △ 【学校教育アンケートの結果より(肯定的回答)】 ・早寝早起き:児童 66.5% × 保護者 99% ○ ・朝ごはん:児童90.5% ○ 保護者 100% ○ △ 【けんかつアンケートの結果より(肯定的回答)】 ・睡眠(学校があった日はいつも何時までに寝ますか) 69.4% △ ・姿勢に気を付けて生活していますか 65.3% ○ ・朝ごはんの3つのスイッチがわかりますか 75.8% × △ ・苦手なものが給食に出たときどうしていますか 90.5% ○ △ 【全体をふりかえって】 ・早寝早起き朝ごはんの大切さについては引き続き継続的に指導していく必要がある。 ・給食推し活週間など、一口チャレンジするような取り組みが、苦手なものが出た時も一口チャレンジしようという意識につながった。 ・姿勢についても、朝礼等による講話だけでなく、児童が実践できる取り組みを行ったことで、意識の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ・児童アンケート結果と保護者アンケート結果の違いが気になる。アンケートだけでは見えない現状にも目を向け、学校としてできることに尽力していただきたい。 ○ ・児童アンケートの項目「早寝・早起き・朝ご飯」を「早寝・早起き」と「朝ご飯」に分けたことで、課題が「早寝・早起き」にあることを明確にできた。この問題は、昨今の生活スタイルやタブレットやスマートフォンなどメディアからの影響も大きいと考えられる。学校と家庭が手を取り合って、子どもたちのためにできることを模索していただきたい。 ○ ・児童に対する意識づけや指導は評価できる。しかし、数値を達成していないものに対しては、再度見直し、改善に努めるように願いたい。

校長より（年度末）

全教職員で同じ学校教育目標に向かって教育活動を行い、成果が表れているのは喜ばしいことである。学力に関しても、計算・漢字の書き取り・作文指導に力を入れ、基礎学力の向上に努めてきた。目標に対し一部未達成もあるが、継続して取り組んでいくことで子どもたちの意識を変え、今後も学力の向上を目指していきたい。また、道徳や学校行事等を通して、よりよい関係づくりと仲間意識を向上させ、自己肯定感や自己有用感といった自分や友だちを大切に思う気持ちを育てていきたい。今後も、様々な場面において、学校と家庭、そして地域が連携した教育活動の推進を図っていきたい。

学校関係者評価者から（年度末）

今年度の目標に対し、客観的に振り返り目標値に対する学校評価を厳しく行ったのは評価する。ただ、子どもたちは各項目において確実に成長しており、学力面・体力面共に学校が指導を頑張ってくれていると思っている。今後も、大きく環境が変わる幼稚園・こども園⇒小学校⇒中学校といった接続の部分を、スムーズにいけるよう十分に配慮等行ってほしい。地域としては防災にも力を入れていることもあり、地域に根ざすこともへと成長させてほしい。